

## 横暖ルーフα

工法

重ね葺き

既存屋根材

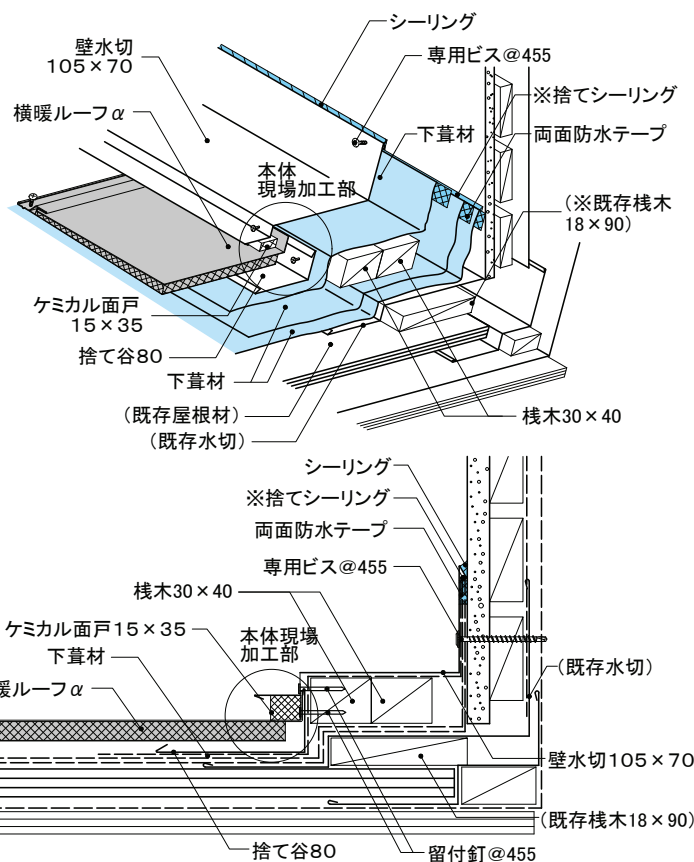
セメント系新生瓦  
アスファルトシングル

## 10) 下屋根部

(既存水切を残す場合)

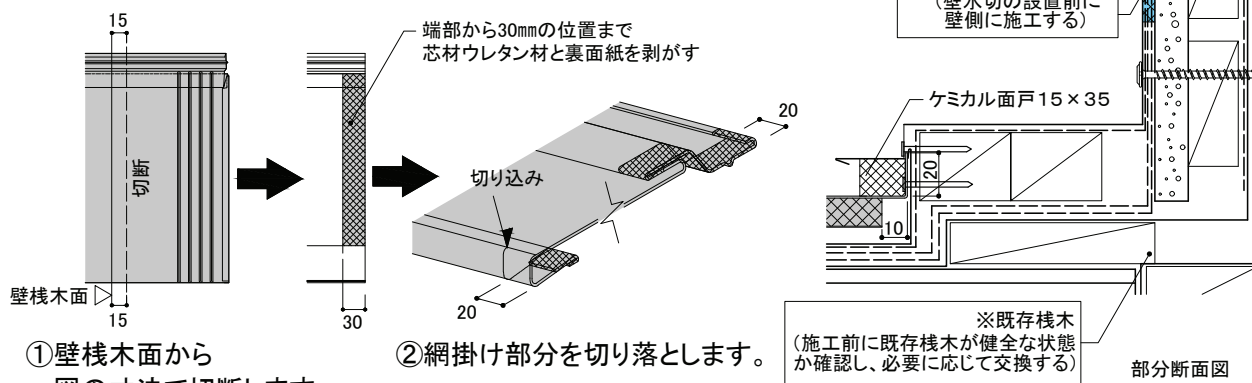
## ①流れ側 壁水切105×70+捨て谷80

- 既存桟木が健全な状態であるか事前に確認してください。
- 既存屋根材に、下葦材を張ります。  
(下葦材の壁止まり部は必ず既存壁まで立ち上げ、両面防水テープで留めます。壁水切105×70取り付け前に捨てシーリングを施工します。)
- 桟木30mm×40mmを取り付けます。
- 捨て谷80は留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を用いて455mm以下の間隔で桟木に留め付け、図のように加工した横暖ルーフα本体を施工します。
- ケミカル面戸15×35を図のように貼り付け、壁水切105×70をかぶせるように施工します。既存壁には専用ビス(ステンレスドリルビスφ4.4mm×55mm)、桟木には留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、それぞれ455mm以下の間隔で留め付けます。
- 壁水切上部にはシーリングを施工し、止水処理を行います。



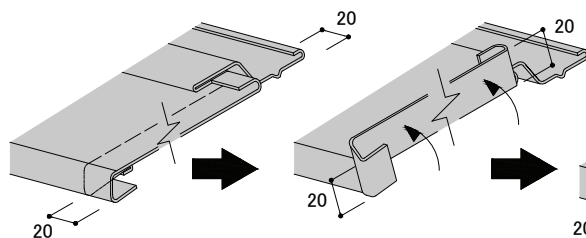
## ■施工ポイント・現場加工図

- 横暖ルーフα本体の壁付部分は、図のように加工します。



- ①壁桟木面から図の寸法で切断します。

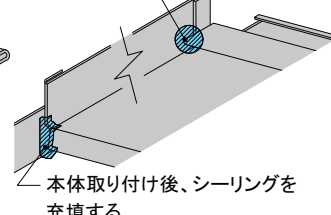
- ②網掛け部分を切り落とします。



- ③切り込みを入れた部分から垂直に起こします。

- ④Rの部分をつぶします。

次の横暖ルーフα本体の取り付け前にシーリングを充填する



- ⑤接合部から雨水の浸入を防ぐためシーリングを充填します。